

研究所通信

□ 発行責任者 NPO法人長崎人権研究所 藤澤 秀雄
□ 住 所 長崎市上銭座町2-7



8月18日（火）から19日（水）の2日間、佐世保市で第42回九州地区人権・同和教育夏期講座が開かれました。1日目の全体会では開

会行事に続いて、部落解放同盟長崎県連合会宮崎書記長が地元報告として「被爆70年―浦上町から―」をテーマに報告しました。この取組みは本年が戦後・被爆70年という節目の年となることを記念し、部落解放同盟や長崎人権研究所、長崎県人教など7団体が実行委員会を設け、戦後の解放運動の歩みや被爆体験などこの間の記録や資料を整理しアーカイブとして

延べ2,900人余が参加した第42回夏期講座
○長崎ならではの原爆と部落差

延べ2,900人余が参加した第42回夏期講座
○長崎ならではの原爆と部落差



奥田均さん（近畿大学）

「企業と人権」テーマに二つの講演

H27企業人権啓発セミナー（11/18-19）

セミナーの後期日程は1月21日から22日に開かれ、パワハラ・セクハラ問題、障害のある人の雇用の問題などをテーマに講演が行われます。

セミナーの後期日程は1月21日から22日に開かれ、パワハラ・セクハラ問題、障害のある人の雇用の問題などをテーマに講演が行われます。

竹内良さん（東京人企連）



竹内良さん（東京人企連）

「被爆70年―浦上町から―」を地元報告―第42回九州同教夏期講座―

保存する取組みや学習講演会を企画実行してきたものです。



報告する宮崎書記長

別の講演では生の痛みを感じることができました。今、憲法が踏みじられ戦争へと進んでいくという状況と戦う日本があります。もともと平和や人権について考え伝えていかなければと感じた（大分）

の発覚から今日までの経緯や公正採用選考の実現にむけた取組みなど企業と人権の関わり的重要性を強調しました。

企画展 「部落問題と新聞報道」

明治・大正・昭和・平成

県人権・同和問題啓発強調月間で開催



今年の企画展（人権教育啓発センター）

長崎県では毎年11月1日から12月10日までを「同和問題啓発強調月間」と定め、この期間を中心に様々な啓発活動が行われています。今年から「人権・同和問題啓発強調月間」に改称されましたが、人権教育啓発センターではこれに併せた企画展や駅前じんけん講座などが実施されました。

をテーマに県内の部落問題が明治以降どのように報道されてきたのか、県立図書館や長崎歴史博物館に所蔵される関連する多くの新聞記事を取り上げ展示されています。企画展では新聞で報道された記事をパネルにして紹介、最も古いのは1875（明治8）年10月13日と15日の2回当時の「中馬込小学校」の教育に関するもの。この小学校は江戸時代「えた」身分とされた旧「皮屋町」に住む人々が地区内に建てた学校で、記事では中馬込住民の学問に対する情熱を讃えています。



駅前じんけん講座（12/5）

今年8月に発行した当研究所の長崎人権ブックレット4部作「こだわって部落問題」を好評発売中です。第42回九州同教夏期講座や第49回部落解放全国研究会、県人教・各地区人教大会など各種集会での販売、学校・書店などからの購読注文など部落問題学習のわ

今年8月に発行した当研究所の長崎人権ブックレット4部作「こだわって部落問題」を好評発売中です。第42回九州同教夏期講座や第49回部落解放全国研究会、県人教・各地区人教大会など各種集会での販売、学校・書店などからの購読注文など部落問題学習のわ

「こだわって部落問題」4部作 発売中

長崎人権ブックレット

今年8月に発行した当研究所の長崎人権ブックレット4部作「こだわって部落問題」を好評発売中です。第42回九州同教夏期講座や第49回部落解放全国研究会、県人教・各地区人教大会など各種集会での販売、学校・書店などからの購読注文など部落問題学習のわ

お知らせ

「みんなの学校」上映会（無料）

◎日時 1月6日（水）13時

◎会場 長崎原爆資料館ホール

あとがき

戦後70年、被爆70年となった今年もまもなく終わる。「新たな戦前の始まりとして人々に記憶されるのではないか」と言われるように、「戦争法」成立を機に世の中はきなくさを増している。「冬来たりなば春遠からじ」とも言うが、「春をわれらがもの」とするために、あきらめることなくねばり強い取組みが求められる（良）

「こだわって部落問題」4冊

実例挙げ詳しく解説

長崎人権研究所がブックレット

④教科書から「土農工商」が消えた？の4冊

①は江戸時代の被差別民の身分呼称が書かれた古地図が長崎市刊行の図録に掲載された一件（1970年）にはじまり、結婚や就職時代の身分制度、原爆被害などを詳述した。

②③では被差別部落の「浦上町」住民の半数近くが長崎原爆で犠牲となった事実に触れた上で、キリスト教伝来にさかのぼって被差別部落が形成された経緯、迫害に耐えた潜伏キリシタンの信仰心、戦前の解放運動を解説した。

④は学校教科書における被差別部落に関する記述の変遷を分かりやすく説明。

2015年8月19日（水）長崎新聞

研究所の入会案内

◇研究所では会員を募集しています。正会員:5,000円 賛助:3,000円、団体賛助:10,000円で年会費です。

「戦後」にまつわること 七十年前の八月十五日

理事長 藤澤 秀雄

戦後七十年もあと残り
少なくなってきた。

七十年前の事について
語り伝えておきたい事が
数ある中で、これだけは
是非と言われれば、それ
は何と言っても八月十五
日の出来事になる。

朝、十時ころ、ラジオ
からアナウンサーの悲痛
な声が流れて来た。正午
に重大放送があるから、
電車やバスも止めて聞い
てくれと言うのである。

丁度、松ヤニ採取に出
掛ける所だったけれども
それじゃ仕様がないうから
聞いてやるかと言う感じ
で、出掛けるのを止めて
放送を聞くことにした。

僅か十日しかない夏休
みの宿題が松ヤニ採取で
ある玄関先の四畳半の
部屋は近所から集まった
人で埋まってしまった。

天皇の第一声は今でも
強く印象に残っている。
甲高く、頭の天辺から
声が出てくる感じで、誰
もが聞きづらかった様で
あった。放送も終わりに
近づき、耳も慣れた頃、
例の「堪へ難キヲ堪へ忍
び難キヲ忍ビ・・・」の
声が流れて来た。すると
皆が一斉に立ち上がり、
互いに顔を見合わせて、
口にしたのが「今何と言
っていたのか」であった。

私も含め、多くの人々
は「もつと頑張れ」と、
受け止めていたが、その
中で唯一一人「日本は負け
たのだ」と受け止めた人
が居た。その人は採炭夫



場所では学校の裏山だから
歩く時間はかかるけれど
も暑さしのぎには最適の
場所なので毎日にかけて
いたのであった。

正午になると、ラジオ
がある玄関先の四畳半の
部屋は近所から集まった
人で埋まってしまった。

天皇の第一声は今でも
強く印象に残っている。
甲高く、頭の天辺から
声が出てくる感じで、誰
もが聞きづらかった様で
あった。放送も終わりに
近づき、耳も慣れた頃、
例の「堪へ難キヲ堪へ忍
び難キヲ忍ビ・・・」の
声が流れて来た。すると
皆が一斉に立ち上がり、
互いに顔を見合わせて、
口にしたのが「今何と言
っていたのか」であった。

私も含め、多くの人々
は「もつと頑張れ」と、
受け止めていたが、その
中で唯一一人「日本は負け
たのだ」と受け止めた人
が居た。その人は採炭夫

日本各地の炭鉱に朝鮮
半島の若者が坑内労働に
狩り出されたのは、業界
からの要望でもあった。
一軒が六畳二間四畳半
一間の五軒長屋に何人が

住み込んで居たか、何を
食べさせられていたのか
は分からない。唯一ハッ
キリしている事は「この
長屋から逃げだせば警察
から連れ戻され、中庭で
竹の笥で叩かれる」と、
言う事である。坑内作業
の中で、最も過酷なのは
採炭である。薄い炭層の
石炭を掘るには、無理な
姿勢で鶴嘴を使用せねば
ならぬからである。

日本の敗戦で強制労働
から解放される事を知っ
て歓声を上げたのは当然
である。

しかし、この日の前日、
国内各地には録音放送の
終了後には、関係書類を
焼却するよう指令が伝達
されていた事実はあまり
知らされていない。

焼却の指令は各方面に
及んでいて、もちろん、
慰安婦関係でも例外では
ない。兵士の数に相応し
て慰安婦の人数も増えて
いったのである。

慰安婦の確保は軍隊で
は出来ないで、闇の組
織、今風に言えば暴力団
が担っていた。

戦後、軍隊は消滅した
が、暴力団は今も生き続
けているのである。

7月25日、26日、
熊本学園大学で開催され
た第21回全国部落史研
究大会に長崎から4名で
参加した。



追悼の言葉を述べる組坂委員長

「犯科帳が織りなす被差
別民の世界」と題して報
告を受けた。長崎奉行所
の判決記録である犯科帳
に記載されている8,4
00件余の事件の中から
「えた」身分に関する6
8件を取り上げ、生業に
関する事件、身分に関
する事件、役に
関する事件など
に分類して、
長崎の「えた」
身分の姿や日
常生活を詳ら
かにかけた報
告であった。

第2日目は、
研究大会全体
講演として
「熊本の被差
別部落の成立
とその展開」
というテーマ
で、熊本学園
大学の山本尚
友さんからの
講演を受けた。
肥後におけ
る「カハタ」
の初見史料
や検地帳に残
されている
近世初頭の「
カハタ」に
関する記述、
唐崎神社に
関する記述、
熊本の皮革
業の特色など
興味深い内
容であった。

被爆70周年

10年ぶりの 郷土親興会懇親会

原爆犠牲者追悼法要も開催

被爆70年の節目を迎
えた今年8月9日(日)、
緑町墓地において原爆犠
牲者追悼法要が開かれま
した。これは浦上町出身
者でつくる「長崎郷土親
興会」の主催によるもの
で、全国各地に離散した
人たちの望郷の想いに応
えるべく被爆30年を機
に始められ本年度40回
目となりました。

今年法要には部落解
放同盟中央本部の組坂委
員長をはじめ兵庫県連や
九州各県連の代表など約
200人が参加。犠牲と
なられた718柱の方々

を偲び、反核・平和の思
いとともに11時2分を
迎えました。

また、前日の8日には
10年ぶりとなる親興会
懇親会が開かれ、遠くは
大阪や兵庫など全国各地
から90人余の皆さんが
集まりました。懇親会で
は部落解放同盟長崎支部
と長崎人権研究所が新た
に作成したDVD「被爆
70年―浦上町から―長
崎郷土親興会の歩み」が
上映され、当時の追悼法
要や懐かしい人たちの笑
顔などを記録したこれま
での写真をみながら懇親
を深めました。



DVDを見ながら親睦を深める

本年の3月14日(土)
13時、長崎市の十八銀
行新大工町支店前に3人
の男たちが集結した。春
爛漫の新大工通りは、人
権研究所未公認の健康事
業「長崎街道をゆく」の
記念すべき第一歩の場と
なった。

私たちは、長崎を起点
に小倉を目指す旅の追体
験を開始した。新たな仲
間を迎えながら、これま
で六回にわたり街道を歩
き、見て回っ
ている。

◆第一回
長崎〜矢上
参加者3名、
距離10km。
西の箱根と評
される日見峠を踏破して
達成感を味わい、体力に
自信を持つ。

「長崎街道をゆく」 山下信哉(長崎人権研究所)

◆第三回5月10日(日)
諫早市貝津町〜大村宿
5名、20km。山中を彷徨
いっつも鈴田峠を越え
る。

◆第四回6月27日(土)
大村宿〜松原宿。7名、
距離10km。
雨の松原宿



日見峠でスイーツタイム

◆第二回4月29日(水)
矢上〜諫早市貝津町中
核工業団地4名、15km。



鈴田峠の藩境で

井樋ノ尾峠(諫早市多良
見町と久山町間)を越え
る途中、道に迷い、砂防
ダムに行き手を阻まれた
ものの、久山茶屋に無事
到着。



俵坂関所跡

10km。豪雨のため松原
宿から先に進むことを断
念。



武雄温泉楼門前

長崎街道は小倉常盤橋を起
点に直方・飯塚・筑紫野・
鳥栖・佐賀・武雄・嬉野・
彼杵・大村・諫早を経て長
崎に至る57里(223km)。宿場
数は25宿以上で通行には6
〜7日を要した。この街道
は参勤交代や長崎奉行、オ
ランダ商館長カピタンの江
戸往復などに利用された。
また、海外の物資・文化・
学問・情報などが移入され
た重要なルートだった。



小田宿の旧家前にて

食。北方宿でちゃんぽん
に舌鼓を打つ。

第21回全国部落史 研究大会に参加して

梅崎 純司(長崎人権研究所)

7月25日、26日、
熊本学園大学で開催され
た第21回全国部落史研
究大会に長崎から4名で
参加した。

「犯科帳が織りなす被差
別民の世界」と題して報
告を受けた。長崎奉行所
の判決記録である犯科帳
に記載されている8,4
00件余の事件の中から
「えた」身分に関する6
8件を取り上げ、生業に
関する事件、身分に関
する事件、役に
関する事件など
に分類して、
長崎の「えた」
身分の姿や日
常生活を詳ら
かにかけた報
告であった。

寺木伸明代表の開会あ
いさつの後、前近代分科
会と近現代分科会の二つ
の分科会に分かれて2本
の報告と質
疑・討論が
行われた。

前近代の
分科会では
福岡の石瀧
豊美さんか
ら「福岡藩
における三
つの被差別
身分につい
て」という
報告を受け
た。福岡藩
では被差別
身分は皮多
身(かわた)・
非人・寺中
の三つであ
ること、石
高所有の被差別身分が意
味するもの、職業と身分
の関係、身分と役負担の
関係などについてわかり
やすく報告してもらった。
続いて、長崎人権研究
所の阿南重幸さんから

「熊本の被差別部落の成立
とその展開」
というテーマ
で、熊本学園
大学の山本尚
友さんからの
講演を受けた。
肥後におけ
る「カハタ」
の初見史料
や検地帳に残
されている
近世初頭の「
カハタ」に
関する記述、
唐崎神社に
関する記述、
熊本の皮革
業の特色など
興味深い内
容であった。